

地域生活サポートセンター ぴぽっと南光台



南光台通信 第12号

ありきたりですが一年を振り返ってみました。

管理者兼相談支援専門員 檜山智彦



前回記事を書いたのが、早々にうだるような暑い日が続き猛暑の予感がしていた6月末。それほど暑くならず、夏の思い出なく、いつの間にか雪も降り、年の瀬になり、一年をふり返る時期となりました。毎年、空白の夏と時の流れの早さをなげいている気がします。(昔、利用者さんに「1日は24時間、一年は365日です、同じです」と言われたことが一番しっくりもきますが・・・)

世の中でもですが、しょうがい福祉業界でも色々なことがありました。最近では少しずつしょうがいの話をニュースなどで見聞きする機会が増えたかと思えます。昨年の相模原の事件の続報も話題になりました。施設内での暴行、車内での放置死、雇用先でのパワハラなどよくない話も大阪や宇都宮、仙台でも多々ありました。しょうがいのある子どもの介護や教育に悩んで親が殺人や傷害事件を起こしたこともありました。おもてだつて「しょうがい」と報じられていなくても実はいじめなど事件の被害者が障害手帳を持っていたこともあります。逆に加害者になったこともありました。

それは「しょうがい」あるなしに関わらず起きていますし、「しょうがい」があることが全ての要因になっているわけではありません。ただ、苦手なことや特性へ十分な配慮がいきわたらないことで、きっかけの一つとして悪い方に流れてしまうことも、大きな被害につながることもあります。

一方で、「パラリンピックにむけ競技が盛んになった」「しょうがいのある方の働く場ができた・新商品を開発した」「医療的ケアなど重度のしょうがいのある方のオシャレを考えるファッションショーが行われた」「地域での生活を考える・災害時の生活を考えるシンポジウムが行われた」などが話題になりました。事件や出来事で報道されることや、しょうがいに関する特集が組まれる機会が増え、しょうがい＝特別なこと、特異なこと、一部の人間だけの話題ということから少しずつかわってきているように感じます。また、タレントさんや落語家さんが自分は発達障害だと告白することや、子どもにしょうがいがあると公表することも増えました。テレビで良く見る人や身近な人がそう話すことで、どこか遠い話から少し身近な話が変わってきて、関心を持ったり、ちょっとしたことに一緒に取り組んでくれたり、日常生活の中で当たり前のこととして受け入れてもらえるようになる等します。

例えば自分の場合、祖父が戦争当時広島にいたがたまたま岡山に帰省して戻るのが一日遅れて難を逃れたが翌日には広島に滞在していたという話を聞いて以来、被爆の問題を身近に感じ勉強中です。また、今年から同僚がパラグアイで働いています(つどいの家・パラグアイではないですが...)。それまでウルグアイかパキスタンだかも区別できませんでした。南米の地図が鮮明になり向こうのニュースに関心を持って聞くようになりました。

しょうがいのある方ご本人やご家族、私たちしょうがい者支援に関わる人たちも沢山の問題や困ったを抱えています。しかし、世の中たくさん問題や困り事で溢れています。その中で、しょうがいの事に関心を持ち、より身近に、共通点や共感をもってもらえるようなきっかけづくりや啓発活動をどう工夫してできるかな? かたっぱしからまずはやってみればいいのか? などと取り組みながらも日々悩む今日この頃でした。

本年も大変お世話になりました。来年&今後とも宜しくお願いいたします。

発行： 社会福祉法人 つどいの家 地域生活サポートセンターぴぽっと南光台
発行所： 檜山智彦(管理者兼相談支援専門員) 発行日：2017年12月20日
住所： 〒981-8003 仙台市泉区南光台3丁目1-24
連絡先： TEL022(779)7341 FAX022(779)7342



法人設立 25 周年記念式典

社会福祉法人つどいの家は1975年に「仙台市重症心身障害児(者)を守る会」として発足し、どんなに重いしょうがいがある人も、地域で差別されることなくいきいきとした自立した生活が出来るように自己実現の場を補償し、支援することを基本理念に様々なことに取り組んできました。そして、25年前の1992年には社会福祉法人格を取得し、活動を広げ、積み重ね今を迎えることができています。

これまでの歩みを振り返り、皆さまに感謝の思いを伝えながら、今ある課題を解決し、より充実した地域での生活の実現をすすめていく為に11月18(土)にホテルメルパーク仙台にて法人設立25周年式典を開催いたしました。

当日は吐く息も白くなるほどの寒さでしたが、県内外からこれまでつどいの家を支えて下さったご本人様とご家族様、事業所仲間の皆さん、以前つどいの家で働いていた仲間たちなど多くの方々に参加して頂きました。

第一部では法人格を取り、各々の思いを実現していく日中活動の場として南光台に仙台つどいの家を設立したのを皮切りに、市内各地域での日中活動の場、宿泊訓練、ご家族の休息やいざという時に対応できるレスパイト事業、親亡き後も安心して過ごせる住まいの場(グループホーム)、家での過ごしや趣味・余暇の充実をサポートするヘルパー事業、思いを実現したり不安や負担を解消して地域での生活をサポートしていく相談支援事業等のつどいの家の歴史を映像で振り返りました。皆様のご支援のもと取り組めてきたことを改めて感じました。

第二部では『重いしょうがいがあっても地域で生きる』を支援する」をテーマに「社会福祉法人訪問の家 前理事長の日浦美智江氏」、「社会福祉法人さざんか会理事長 宮代隆治氏」、「厚生労働省医療介護連携政策課長 黒田秀郎氏」の3名の皆様や当法人の理事長下郡山和子のお話をシンポジウム方式で行ないました。皆さんが熱い思いを持って取り組み、積み重ね、実現してきた事が沢山ある中で、更にしょうがいのある方が地域で生活をしていくために解決していくべき課題、その為にどんな取り組みが必要かという熱い話が展開されました。

第三部では、つどいの家の中長期計画を、利用者さんやご家族のみなさんや職員等からの、思いや願いを込めたメッセージを交えて、『ミライヘノコトバ』をテーマに映像で紹介しました。実現してきたこと、それでもまだまだ今も将来にもある解決すべき課題に向けて、私達に何が出来るのか、その為に組織として何をしていくべきなのかを改めて考えさせられました。

これまで積み重ねてきたことはとても大切なものです。多くの方々のサポートがあり実現してきた事であり改めて心より感謝申し上げます。ただ、時が流れることで、良いことも悪いことも、希望も不安もつぎつぎと生まれてきます。汲み取りきれなかった思い、実現しきれない願いもたくさんあります。

これまでの自分たちを振り返りながら、それらの解決・実現の為に私達が何をできるのか・していくべきかの決意新たにする一日、皆さまに感謝をお伝えする一日となりました。(檜山)



これからもよろしく願いいたします。
みなさんの思いをぜひまた聞かせて下さい。

「こぎん部」ご紹介

すてっぷサロンの貸館を利用いただき、活動されている「こぎん部」代表の長岡さんからお話を伺いました。

こぎん刺しとは？青森県津軽地方に伝わる刺し子の技法の一つで、布目の粗い麻布しか手に入らなかった地方で女性が家族を思いながら藍染の紺色布に白の木綿糸で刺して温かい着物を作ったことが始まりの刺し子です。

支援学校の保護者5名で3年前に活動を開始、子育てや介護をしながらの活動のため不定期開催ですが、作品を作ったりオフ会（ランチ会）を開いたり

「自分の時間」を過ごしているそうです。

最近娘さんの母校のバザー、現在通っている施設のバザーで作品を販売。大変好評で完売だったそうです。



今後は体験レッスン付きの展示販売会を開きたいとのこと。

皆さん子育てや介護から離れた自分の時間を大切に過ごしながらも、「家で作業をしていたら子供が興味を持ったので教えたら通っている施設での作品作りにつながらせたいという話になった！」

「職場で帰国される外国人の上司に日本のお土産としてプレゼントしたいから作ってほしいと

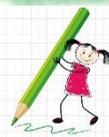
体験で作れます

旦那さんに言われた！」

など、家族の中でも喜ばれているようです。

一度体験してみたい！作品を見てみたい！など興味のある方はぴぼっと南光台へご連絡ください。

担当：事務山口



ヘルパー研修会報告

去る10月22日（日）に福祉プラザの研修室をお借りしてヘルパー研修会を開催しました。



当日は、「ぺんたす」と「ぴぼっと」（ピボット若林）のヘルプサービスをご利用いただいている利用者さん2名とそのご家族をお招きして、サービスを利用したきっかけや移動支援で楽しかった事など貴重なお話を聴かせていただきました。

利用者さんのお一人は、移動支援を利用して、浅草に行ったお話しをしてくれました。浅草寺を参拝し、美味しい食事をいただいてとても満足。「この次はパンダを見に上野動物園に行ってみたい！」「野球観戦にも行きたい！」と、とても喜んでお話ししている様子が印象的でした。

利用者さんやご家族が、嬉しそうにお話ししている姿をみていると、支援をしていて良かったと、実感するしヘルパーの仕事に誇りを持つ事ができました。

また、自分自身もたくさんの利用者さんとヘルプを通して接する機会がこれから多くなるので、満足していただけるよう一段とスキルアップをし、利用者さん主体の支援をしていこう！と、改めて考えることができた研修会でした。

記：山口（大）



ヘルパー&介護人募集

ぴぼっと南光台ではホームヘルプ事業・ぺんたすではヘルパーさんを
レスパイト事業・すてっぷ・はうすでは介護人さんを募集中です！！

ぺんたすのヘルパーは・・・

- 資格 ヘルパー2級以上の資格をお持ちの方
(介護職員初任者研修の修了者 介護福祉士 看護師)
- 時給 800円～ + 業務手当300円
(研修などは800円 ヘルパー業務のときは+300円の手当がつきます)
- 交通費 派遣先までの実費支給あり

すてっぷ・はうすの介護人は・・・

- 資格 18歳以上の方 ※資格は必要ありません
- 手当 日中介護は時給900円～(早朝・夜間手当あり) ※実習中は810円
宿泊介護は1泊7400円



まずは お電話ください！！

ぴぼっと南光台 022-779-7341

たかはしたけし さえき みか こ こだまふみあき
ぺんたす高橋毅迅 佐伯美佳子 すてっぷ・はうす児玉文昭



新職員紹介

9月25日からすてっぷ・はうす(専任介護人)として勤務している寺元亜矢子(てらもと あやこ)です。主人の転勤で神奈川から仙台の地へ参りました。趣味は山登りとトロンボーンの演奏です。これから色々な方に会える事を楽しみにしています。



～皆様にご報告～8月から産休に入っていたすてっぷ・はうすの加藤沙織さんが無事元気な女の子を出産しました。先日二人で元気な姿を見せてくれました。また会える日をぴぼっと南光台職員一同楽しみにしています。

編集後記

南光台に異動してきて早いもので、半年がたちました。
…が、自宅から職場までの道、他の事業所までの道など決まった道しかわからず、どんなに混んでいても冒険できず四条通りをひたすらまっすぐ…。帰りは暗いし駐車場が入りにくそうだし…気が付いたら通り過ぎている…と、気になるお店にもよれず…。来年は南光台のお店、裏道などを探検してみようと思います！
山口(ま)